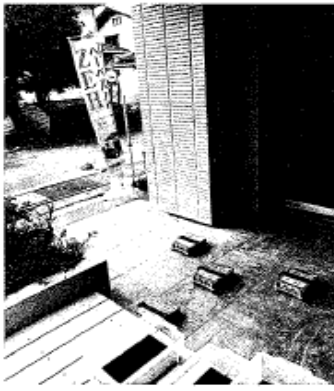


## 敷地特性に応じた地震動を予測するシステムを共同開発へ

旭化成・旭化成ホームズ

旭化成と旭化成ホームズは、国立研究開発法人防災科学技術研究所（林春男理事長）と「極小アレイ微動観測」を利用した建築物敷地別地震動予測システムの開発」で共同研究を開始した。

極小アレイ微動観測は表層地盤ごとに異なる揺れやすさを推定するもので、防災科学技術研究所などが開発。これによって蓄積された地盤構造データをもとに、実際の地震時の地震予測を行う。2016年4月に発生した熊本地震



展示場での微動観測器の設置状況

では、多くの住宅が倒壊した原因として表層地盤の揺れやすさが大きく関わっているとされている。

今回使用する極小アレイ微動観測は、地表付近で発生する微小な振動を、戸建住宅の敷地でも測定可能なようにコンパクトに設計された複数の微動計で測定し、データを解析することで地盤構造を推定する調査手法を用いる。表層地盤は同じエリアでも敷地によって異なるが、この手法により地震による建物の揺れやすさを手帳に個別に推定することが可能になる。今回の共同研究で旭化成ホームズは住宅展示場約60カ所の敷地を微動観測のために提供。スマートフォンを用いた地震計を設置し地震発生時のデータ取得を行い、微動観測データによ

る敷地の地震動予測の有効性、正確性を検証する。

オリコン顧客満足度ランキング「大型リフォーム」で1位に

大和ハウスリフォーム

大和ハウスグループの大和ハウスリフォーム（大阪府大阪市 村井勝行社長）は、「2017年オリコン日本顧客満足度ランキング」の「大型リフォーム」において1位を獲得した。

2016年に続き2年連続の獲得となる。

「大型リフォーム」では、マンションや戸建住宅向けに施工金額が建設業の許可が必要な500万円以上のリフォームを受注・施工した事業者を対象に顧客満足度を調査した。同社は評価項目別のランキングでも「仕上がり」「保証・アフターサービス」「施工担当者の対応」において1位に選ばれた。

栃木県小山市で大型戸建分譲地の共同開発に着手

トヨタホーム・トヨタウッドユーホーム  
トヨタホームとグループ会社

社の下タウッドユーホーム（栃木県小山市 中津正修社長）は、栃木県小山市で戸建分譲地「神鳥谷南」（仮称）の共同開発に着手した。

開発する「神鳥谷南」（仮称）は16万8522平方メートルの敷地面積があり、約450区画で構成される。一戸あたりの敷地面積は平均218・27平方メートル。外周に歩行者専用道路を設けるほか、調整池周辺に緑豊かな公園を配置し、ゆとりある街並みの実現を目指す。

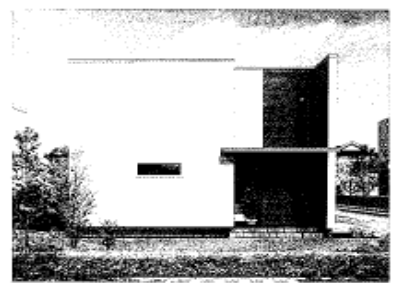
事業比率はトヨタホームが35%、トヨタウッドユーホームが65%。1月19日に宅地造成工事を開始し、2019年12月の工事完了を予定している。

外張W断熱で手頃な価格「PREST」の受注が好調

アエラホーム

昨年9月末に発売した「PREST」の受注が好調に推移している。

同商品は、住宅全体をアルミ箔面材付き遮熱断熱材で包み込む外張工法に、壁の内側



外張W断熱でU<sub>a</sub>値0.53を実現した高性能住宅を手頃な価格で提供

から発泡ウレタンフォーム断熱材を吹きつける外張W断熱を採用。U<sub>a</sub>値は0・53、C値は0・47（ともに3〜7地域における標準仕様の平均値）という高い性能を発揮する。

さらに従来商品の基本仕様の変更や部材調達合理化を図ることで39・8万円/坪（税抜）からという手頃な価格を実現した。

同社では「PREST」を一次取得者層に向けた高気密・高断熱住宅の普及促進モデルと位置付け、年間300棟の販売を目指しているが、予想を上回る手応え。発売から3カ月間の受注は約80棟と好調に推移し、同社の受注棟数全体の約5割を占めるに至っている。